

簡易集会所の建設プロジェクト - 仮設住居の入居率向上のための試み - 計画に対するご支援のお願い

2011.09.05

理工学部建築都市デザイン学科 宗本

本プロジェクトは、立命館災害復興支援室で実施されている立命館の教職員が主体となり集団的に取り組まれる復興支援活動に対する予算措置事業である「東日本大震災復興のための『私たちの提案』」に採択された取り組みです。

現在、教職員と学生が鋭意復興支援活動を行っておりますが、活動を進めていく中で、様々な課題が発生してきました。立命館に関わりのある皆様方におかれまして、ご協力・支援いただくことが可能な方がいらっしゃいましたら、災害復興支援室にご連絡をいただけますと幸いです。何卒よろしくお願いたします。

■活動目的

供給されている仮設住居には、住民が集まり安心感を共有する場が欠落しています。そこで住人の良好なコミュニティ形成のために、仮設住居の横に簡易集会所を建設します。簡易ながらも自身の手で地域のシンボルとなる建築をつくるプロセスを共有してもらうことにより、立命館で建築を学ぶ学生に、モノづくりの力と達成感、あわせて社会貢献の喜びを体験してもらいたいと思っています。

■活動主体

立命館大学理工学部建築都市デザイン学科建築計画研究室+有志学生（1～3 回生）

現地協力の協力体制

NPO 法人サクラネット 石井ふきこ代表（現地社協とのコーディネート役）

社会福祉法人宮古市社会福祉協議会（宮古市生活復興支援センター）

岩手県立大学 社会福祉学部（学生ボランティアの派遣）

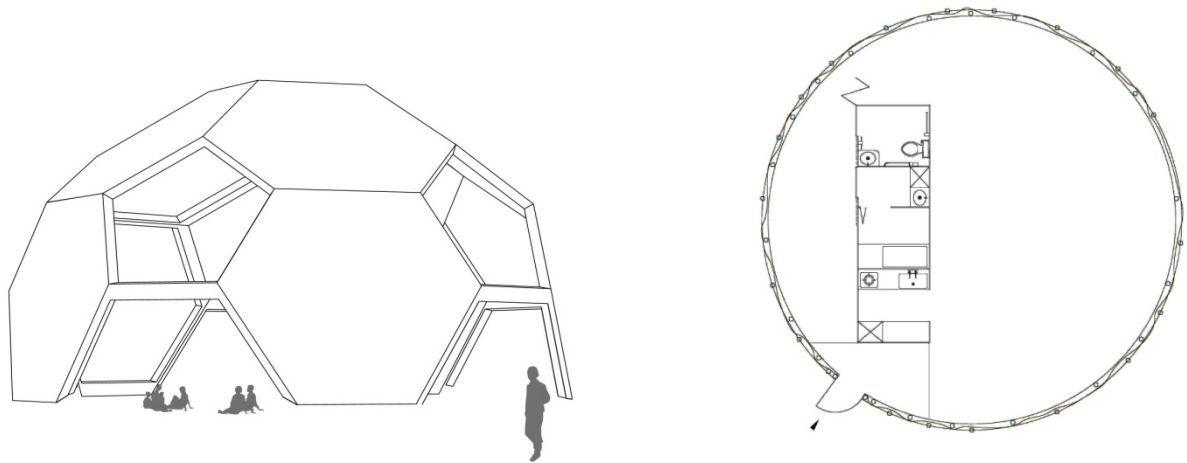
■活動場所

宮古市重茂第 2 仮設団地の横に建設することを予定しています。建設地のすぐ横には漁業組合の仮の作業場があり、この仮設団地にも漁業組合と関係の深い住民がおられます。ここにデイケアセンターのような地元の高齢者が集える場が必要とされています。



■集会所に求められる機能

15人~20人の高齢者がごろ寝もできるような30畳のスペース、身障者用トイレ、湯沸が求められています。また、本設の建物がいつ建設されるかが約束されていないため、この建物が「仮設」と定義される1~2年に限らず、ある程度長期にわたる使用を想定しておかなければならないことが分かりました。当初は、この仮設建築に用いる材料は、現地の竹林の竹を使用するつもりでしたが、竹は糖分が多く含まれ、虫がつきやすいため、長期使用には不向きです。屋根・壁にはテントを用いるつもりでしたが、テントも不適切です。加えて、キッチン・トイレは、キッチン家具や便器にコストがかかる上、素人が施工できない配管工事が必要となるため、当初はつくらないつもりでしたが、これも必要となりました。現地の要望に応えるべく、要求を満足する効率的なプランと構法を再検討しています。



六角形（1辺2m）のパネルを組み合わせた木のドーム（検討中）

■資材提供・人的支援のお願い

このように使用材料、構法ともに見直しを行っていますが、現地は想定していたよりも、規模が大きく、仕様の高いものを必要としており、実現に向けて下記が不足しています。

資材

- ・六角形のパネルをつくるための木材と、長期化を想定して木を保護するための塗装材
- ・六角形のパネルを地面に緊結する金物
- ・木のパネルを組み上げるための重機
- ・塩ビ、またはガラス等の開口部のための材料

人的支援

- ・大工技術を持つ人
- ・重機を操縦できる人
- ・配管工事を行うことができる人

関心のある方は、どなたでも参加していただけます。お気軽に下記までご連絡ください。

■立命館災害復興支援室：r2020@st.ritsumeikan.ac.jp

■宗本：munemoto@fc.ritsumeikan.ac.jp